

定期作況報告

(第5号 平成21年9月20日現在)

北海道立上川農業試験場

1. 気象概況

8月下旬：最高気温は平年より1.9 低く、最低気温も平年より1.2 低かった。降水量は平年より6.9mm 少なく、平年対比 86%であった。降水日数は平年より1 日少なかった。日照時間は平年より9.8 時間少なく、平年対比 80 %であった。夏日(最高気温 25 以上)は2 日あり、うち真夏日(最高気温 30 以上)はなかった。

9月上旬：最高気温は平年より2.2 低く、最低気温も平年より2.3 低かった。降水量は平年より31.4mm 多く、平年対比 158%であった。降水日数は平年より2 日多かった。日照時間は平年より2.4 時間少なく、平年対比 95 %であった。夏日は2 日あり、うち真夏日はなかった。

9月中旬：最高気温は平年より0.1 低く、最低気温も平年より1.8 低かった。降水量は平年より33.6mm 少なく、平年対比 29%であった。降水日数は平年並であった。日照時間は平年より11.8 時間多く、平年対比 124 %であった。夏日および真夏日はなかった。

8月下旬から9月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	8月下旬			9月上旬			9月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温()	22.9	24.8	1.9	21.6	23.8	2.2	21.6	21.7	0.1	22.0	23.4	1.4
最低気温()	13.8	15.0	1.2	11.3	13.6	2.3	9.2	11.0	1.8	11.4	13.2	1.8
平均気温()	18.2	19.5	1.3	16.3	18.4	2.1	14.5	16.1	1.6	16.3	18.0	1.7
降水量(mm)	43.0	49.9	6.9	86.0	54.6	31.4	13.5	47.1	33.6	142.5	151.6	9.1
降水日数(日)	4	5	1	7	5	2	4	4	0	15	14	1
日照時間(hr)	39.5	49.3	9.8	45.4	47.8	2.4	60.2	48.4	11.8	145.1	145.5	0.4

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10カ年の平均値。

3) 印は平年に比べて減を示す。

2. 作 況

1) 水 稲 : 不良

事 由： 8月中旬から続く平年を下回る低温により、成熟期は出穂時よりも平年比でさらに遅れ、「ほしのゆめ」が12日遅れた。「きらら397」「ななつぼし」は現時点で成熟期に達していない。「ほしのゆめ」の登熟日数は平年より5日多かった。

m²当たり穂数は「きらら397」が平年よりわずかに多かったものの、他はやや少なかった。一穂粒数（暫定値）は「きらら397」が平年より15%多く、他はほぼ平年並であった。その結果、m²当たり粒数（m²当たり穂数×一穂粒数、暫定値）は「きらら397」が平年より17%多く、「ほしのゆめ」「ななつぼし」は4～5%少なかった。

稔実歩合はいずれの品種も平年に比べ低く、63～74%に留まった。m²当たり稔実粒数（m²当たり粒数×稔実歩合、暫定値）も平年を大きく下回り、平年の75～81%であった。稔実歩合が平年より低いため登熟歩合の進度は平年に比べ低く推移した。

以上、冷害危険期の低温による不稔の発生で稔実歩合の低下が著しく、稔実粒数は平年を大きく下回っており収量減となることが予想される。目下の作況は「不良」である。

表2 生育期節

品 種 苗	成熟期（月・日）			登熟日数（日）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ほしのゆめ 成苗	9.18	9.6	12	50	45	5
きらら397 成苗		9.12			49	
ななつぼし 成苗		9.10			48	

注1) 平年値は平成14～20年7カ年のうち平成20年（最豊年）、平成15年（最凶年）を除いた5カ年の平均を用いた。

2) 印は平年に比べて「遅」（成熟期）または「多」（登熟日数）を示す。

表3 収量構成要素および稔実歩合

品 種 苗	m ² 当たり穂数(本)				一穂粒数(粒)				m ² 当たり粒数(×1000粒)			
	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)
ほしのゆめ 成苗	711	755	44	94	(43.3)	42.4	0.9	102	(30.8)	32.0	1.2	96
きらら397 成苗	726	714	12	102	(48.8)	42.4	6.4	115	(35.4)	30.3	5.1	117
ななつぼし 成苗	647	678	31	95	(50.6)	50.6	0.0	100	(32.7)	34.3	1.6	95
品 種 苗	稔実歩合(%)				m ² 当稔実粒数(×1000粒)							
	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)				
ほしのゆめ 成苗	73.5	92.3	18.8	80	(22.6)	29.5	6.9	77				
きらら397 成苗	63.3	91.8	28.5	69	(22.4)	27.8	5.4	81				
ななつぼし 成苗	71.7	91.4	19.7	78	(23.4)	31.4	8.0	75				

注1) 平年値は平成14～20年7カ年のうち平成20年(最豊年)、平成15年(最凶年)を除いた5カ年の平均を用いた。

2) 印は平年に比べて「減」を示す。

3) 一穂粒数の平年値は、登熟調査および不稔調査を行った計12株の平均値を用いているが、本年は現時点で2株が未調査であるため10株の平均を用いた暫定値である。そのため、本年のm²当たり粒数およびm²当たり稔実粒数の値も暫定値である。

表4 出穂後経時登熟歩合

品 種 苗	出穂後20日目			出穂後30日目			出穂後40日目		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ほしのゆめ 成苗	8.3	13.8	5.5	52.3	55.6	3.3	68.5 (80.2)	-	-
きらら397 成苗	2.1	13.4	11.3	40.6	53.9	13.3	57.5 (76.7)	-	-
ななつぼし 成苗	9.6	13.3	3.7	42.7	51.4	8.7	64.1 (77.2)	-	-

注1) 平年値は平成14～20年7カ年のうち平成20年(最豊年)、平成15年(最凶年)を除いた5カ年の平均を用いた。

2) 出穂後40日目の平年値は平成16年のデータが欠測のため4カ年のみのデータから平均を算出しており参考扱いとする。

3) 登熟歩合は比重1.06の塩水選で求めた。

4) 印は平年に比べて「減」を示す。

2) 秋まき小麦：平年より9日遅い9月16日に播種を行った。

3) 春まき小麦：不良

事由：倒伏により子実への転流が劣ったことから、千粒重が平年を下回り、子実重は平年比74%と低収となった。リットル重も平年より軽かった。

したがって、目下の作況は不良である。

表5 春まき小麦の収量

品 種 名	子実重(kg/10a)			子実重平年比 (%)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
春よ恋	410	556	146	74	100	26

品 種 名	千 粒 重 (g)			リットル重 (g)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
春よ恋	35.4	41.1	5.7	741	807	66

注1) 平年値は、前7か年中、平成15年、18年を除く5か年の平均値

2) は平年より減を示す。

4)大豆 : 平年並

事由：一部倒伏しているが、腐敗や着莢不良はほとんどみられない。8月下旬以降は低温傾向に推移したことから、成熟期は平年よりやや遅れると考えられる。主茎長は平年より長く、主茎節数は平年より多いが、分枝数は平年よりやや少ない。着莢数は平年並である。

したがって、目下の作況は平年並である。

表6 9月20日の大豆の生育

品 種 名	成 熟 期 (月日)		
	本 年	平 年	比 較
ユキホマレ	-	9.21	-

品 種 名	主 茎 長 (cm)			主 茎 節 数 (節)			分 枝 数 (本/株)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
ユキホマレ	76.7	63.1	13.6	11.4	10.5	0.9	5.1	5.9	0.8

品 種 名	着 莢 数 (個/株)		
	本 年	平 年	比 較
ユキホマレ	80	77	3

注1) 平年値は前7か年中、平成14年、18年を除く5か年の平均値。

2) は平年より減を示す。

5) 小豆 : 平年並

事由: 8月下旬以降は低温傾向に推移したため、成熟期は平年より7~9日遅かった。主茎長は、平年より長く、分枝数は平年並からやや少なく、着莢数は平年並であった。

したがって、目下の作況は平年並である。

表7 成熟期の小豆の生育

品 種 名	成 熟 期 (月日)			主 茎 長 (cm)			分 枝 数 (本/株)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
エリモショウズ	9.13	9.6	7	81	58	23	3.7	4.5	0.8
しゅまり	9.15	9.6	9	85	62	23	5.0	4.9	0.1

品 種 名	着 莢 数 (個/株)		
	本 年	平 年	比 較
エリモショウズ	55	54	1
しゅまり	54	51	3

注1) 平年値は、前7か年中、平成15年、平成16年を除く5か年の平均値。

2) は平年より減を示す。

6) ばれいしょ： やや良

事由： 枯凋期は平年より1日早い9月1日であった。株当たり上いも数は平年より多く、上いも平均一個重は平年よりやや軽く、上いも収量、中以上いも収量および規格内収量は、いずれも平年を上回った。なお、でん粉価は平年より0.3%低かった。

したがって、目下の作況はやや良である。

表8 9月20日のばれいしょの生育

品種名	枯凋期(月日)			上いも数(個/株)			上いも平均一個重(g)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
男爵いも	9.1	9.2	1	13.3	11.7	1.6	92	97	5

品種名	上いも収量(kg/10a)			中以上いも収量(kg/10a)			規格内収量(kg/10a)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
男爵いも	5393	5019	374	4626	4330	296	4247	4052	195

品種名	でんぷん価(%)			収量平年比(%)		
	本年	平年	比較	上いも	中以上	規格内
男爵いも	14.7	15.0	0.3	107	107	105

注1) 平年値は、前7か年中平成16、19年を除く5か年の平均値。

2) は平年より早を、 は平年より減を示す。

3) 規格内収量は、生食用規格内(M~2L, 60~260g/個)の収量である。